



## 「TEENS ROCK ASIA IN KOREA」で 日中韓の青少年が交流

안녕하세요(アンニョンハセヨ)! クレアソウル事務所の飯村です。

韓国は、だんだん気温が下がり始めて、徐々に秋の足音が聞こえてきている感じがします。

さて、今回の駐在員通信では、7月末に韓国・仁川広域市で行われた「TEENS ROCK ASIA IN KOREA」についてご紹介します。このイベントは、2010年の上海万博にあわせてスタートしたもので、現在は日本、中国、韓国の3カ国から選抜されたバンドたちが、音楽と様々な行事を通じて国際交流を行っています。

まず、7月25日には、仁川市内のホテルにおいて歓迎晩餐会が開かれました。ここでは、3カ国のバンドのメンバーやボランティアの学生スタッフたちが、歌や演奏を通じてお互いの文化を紹介して交流を深めました。

日本からは、茨城県で活動する *lisa\** (リサ) さんのギター弾き語りと、ボランティアスタッフによる浴衣ファッションショーを見せてくれました。なんと男の子も女の子用の浴衣を着て登場! 会場は大いに盛り上がっていました。



茨城県で活動する *lisa\**さん



浴衣で「恋するフォーチュンクッキー」を披露

そして26日は、待ちに待ったロックバンド演奏の本番です。ステージは、仁川市内で最も大きく、プロのアーティストやオーケストラ等も公演を行うような大舞台。そこに、テレビ局のセットが組み、司会もプロのアナウンサー…きっと、バンドの皆さんも緊張したのではないのでしょうか。

しかし本番では、どのバンドも伸びやかにいきいきと演奏してくれました。高校生とあって、トークの際にはややぎこちなさも見られましたが、演奏の時にはしっかりと普段の力を発揮できていたようです。終わった後の笑顔がきらきらと輝いていました。



東京出身のドコドコ bot の熱演



日本側を代表して橋本知事が挨拶

そして27日は、韓国の文化体験を通じた交流を行いました。まずはK-POPダンス。普段バンドで音楽を楽しんでいる生徒たちがどのようにダンスに取り組むのか興味を持って見ていましたが、とても楽しんで一生懸命ダンスを覚えようと頑張っている姿が印象的でした。



3カ国の参加者が揃ってダンス



難しい振りをして一生懸命真似していました

ダンスの後は、ショッピングモールへ移動して、グループごとに買い物を楽しみました。韓国人ボランティアの方が一緒に行動してくれて、お店の説明などを手伝ってくれましたが、それでもレジでの会計などは自分で対応していて、周りに頼らず行動する姿に感心しました。

それから「BIBAP」というノンバーバル（言葉のない）ステージを観覧しました。外国人観光客にも楽しめる、ステージ上のパフォーマンスと歌やダンスでストーリーが展開するエンターテイメントです。ストーリーの面白さだけでなく、ボイスパーカッションやアカペラ、ブレイクダンスなどハイレベルのパフォーマンスに、客席の感動が伝わってきました。



BIBAP 終了後に出演者と一緒に記念撮影

言葉がなくても楽しめるステージに、参加者も大満足の様子でした。

そしてこの日の夜は、バーベキューと野外キャンプです。残念ながら私はここまでしか取材することができなかったのですが、最後に日本からの参加者に感想を聞く事ができました。

まず、北海道から参加したバンド「Sens@Rt.」(センサー)の鈴木拓真さんは「日本以外の国の人に自分たちの音楽を聞いてもらうというのは初めての経験でしたが、自分たちが音楽にこめた思いを他の国の人に届けられたことが嬉しかったです。中国や韓国の参加者とは、ジェスチャーでコミュニケーションをとりました。今後も国際交流を続けていきたいです。」

大学生スタッフとして参加した浅野渚さんは「自分が楽しむだけではなく、参加者の世話をしなければならないというスタッフとしての責任感を強く感じました。時間が経つにつれて、参加者との交流が徐々に深まっていったのが嬉しかったです。今後も国際交流を続けて行きたいし、もし国際交流をすることに迷っている人がいたら、英語などの外国語が得意でなくても交流はできるんだということを伝えたいです。」このように、参加者が今後も国際交流を続けていきたいと考えてくれていたことが、何よりの成果だったのではないかと思います。

日中韓という、センシティブな問題も抱える3カ国にあって、このような青少年の交流が続けられる事は非常に意義の大きいことだと思いますし、何よりも参加した高校生や大学生たちの交流に対する純粋な心が伝わってきて、とても清々しい気持ちになりました。これからもこの TEENS ROCK ASIA を通じて、3カ国の友情が深まっていくことを願います。